

平城・相楽ニュータウン居住者の公園を媒介とした地域への愛着の醸成に至る意識構造

The Psychological Process into Attachment Formation to Residential Area through Neighborhood Parks in the Case of Heijou and Souraku New Town

窪田 陽樹* 松尾 薫** 川口 将武*** 赤澤 宏樹**** 武田 重昭** 加我 宏之**

Haruki KUBOTA Kaoru MATSUO Masatake KAWAGUCHI Hiroki AKAZAWA
Shigeaki TAKEDA Hiroyuki KAGA

Abstract: This study aims to discuss the psychological process how the evaluation and perception of residential area or neighborhood parks were connected with the formation of attachment to residential area through neighborhood parks. Concretely, the structural equation modeling was conducted based on the results of questionnaire surveys for the residents in new town. In addition, this study targeted two areas with different resident's activities, "Suzaku area" and "Sakyo area" in new town where the site of "Basic Parks for Community Use" is planned because the relationship between "evaluation and perception of residential area or neighborhood parks" and "attachment to residential area" is discussed limited to the park. As a result, the following findings were obtained; 1) in both areas, "attachment to residential area" is influenced "attachment to neighborhood parks." And, the positive "evaluation of neighborhood park environment" and "involvement through participation into neighborhood park activities" encourages "attachment to residential area" through "evaluation of residential environment," "involvement through participation into residential activities" and "attachment to neighborhood parks." 2) The difference is revealed that "attachment to residential area" and "attachment to neighborhood parks" have influence on each other only in "Suzaku area" which residents pursue activities.

Keywords: neighborhood park, attachment formation to residential area, new town, covariance structure analysis

キーワード: 住区基幹公園, 地域愛着, ニュータウン, 共分散構造分析

1. はじめに

人口減少の進行に伴い、住民の地域活動が縮小することによって、住民同士の交流の機会が減少し、地域のにぎわいが低下するとともに、地域への愛着（以下、地域愛着）の喪失につながるものが危惧されている¹⁾。地域愛着は、持続可能な都市づくりにとって重要な意味を持つものであり²⁻⁴⁾、地域の生活基盤を構成する都市施設の整備計画などに活用することの有効性が指摘されている⁵⁾。こうした地域愛着は、地域環境との接触により高まることが指摘されており^{6,7)}、公園は、都市施設の中でも住民同士の交流の機会を提供し、地域の環境を形成する重要な都市施設であると考えられる。

地域愛着に関する既往研究を見ると、松村⁸⁾は、生活者の交通行動変容と地域愛着との関係性に着目し、生活者のバスの利用頻度や公園の利用頻度、居住年数が地域愛着に影響を与えていることを明らかにしている。引地ら⁹⁾は、地域愛着の形成について、物理的及び社会的環境の影響の観点から、地域環境に対する評価が高い住民ほど地域愛着が強いことを指摘し、居住年数が地域に対する愛着を高める効果は、地域の物理的及び社会的環境に比べて小さいこと、地域のランドマークは、地域の環境に対する評価項目を介して間接的に地域愛着を高めることを示唆している。また、鈴木ら¹⁰⁾は、公共のオープンスペースであり、人々が集う広場及び地域や住区の中心となる小学校に対する愛着が高い人ほど、まちへの愛着が高くなることを示した。これらの研究では、地域の物理的及び社会的環境に対する評価と地域愛着との因果関係が明らかにされており、地域愛着は、地域環境との接触頻度が関係していることを示唆している。

次に、居住者の公園の評価に関する既往研究を見ると、松浦¹¹⁾は、住民主体による公園の再整備が進められている地区では、居住者の公園の利用頻度や公園への愛着が高くなることを明らかにしており、塚田ら¹²⁾や藤居¹³⁾は、居住者の公園満足度やSD法によるイメージ評価の結果から居住者の公園の総合評価構造モデルを提

示している。

以上のように、都市施設の中でも居住者の日常生活の中で身近に接する機会が多い公園に対する居住者の意識構造については明らかにされつつある。一方、居住者の地域愛着は、地域を構成する物理的及び社会的環境が複合的に影響することで醸成されることが示唆されているが、都市施設の個別の要素が個々に地域愛着にどのように、どの程度影響しているのかを探った研究は見られない。本研究では、都市施設の中でも居住者の日常生活の中で身近に接する機会が多い公園に着目し、居住者が抱く公園への愛着が地域愛着を高められるのか、また逆に地域への愛着は、公園への愛着を高めるのかを探ることとした。本研究の目的を達成するにあたり、一般市街地では、社寺仏閣等の歴史文化資産が混在し、住区基幹公園の整備状況も市街地整備履歴によってそれぞれ異なることから、近隣住区論に基づいて街区公園、近隣公園、地区公園といった住区基幹公園を計画的に配置し、計画的に整備されたニュータウン地区を対象とすることで、地域愛着の醸成に対して公園がどのように影響しているのかを公園に限定して探ることができると考えられる。加えて、近年公園での清掃・美化をはじめとする住民活動は活発化しつつあるものの、こうした住民活動は地区によって取り組み内容が異なっており、住区基幹公園の評価においてもその影響を加味することが求められる。

そこで本研究では、都市施設の中でも住民同士の交流の機会を提供し、地域の環境を形成する重要な都市施設である住区基幹公園が計画的に配置された平城・相楽ニュータウンを対象に、公園での住民活動が異なる2地区の居住者の公園や地域に対する意識を把握し、住民意識調査結果を用いた共分散構造分析によって、ニュータウン居住者の公園を媒介とした地域愛着の醸成に至る意識構造を2地区の比較を通じて探ることを目的とした。

2. 研究の方法

(1) 調査対象地区の概要

*奈良県 **大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

***大阪産業大学デザイン工学部

****兵庫県立大学自然・環境科学研究所

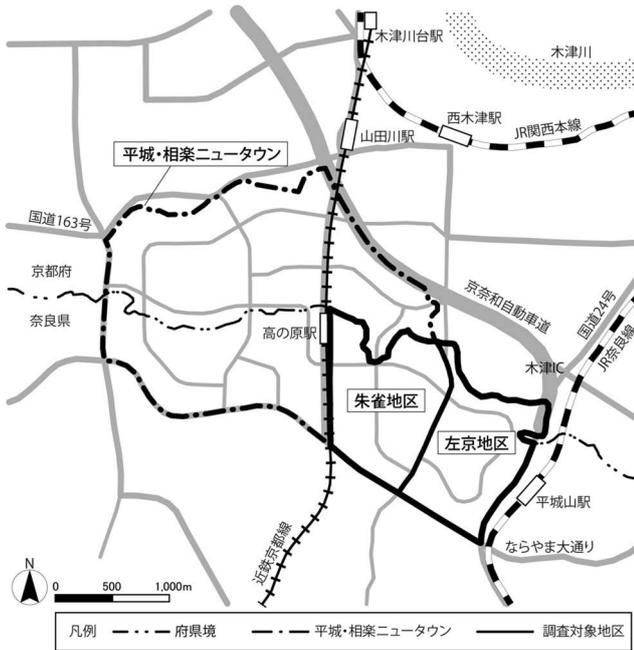


図-1 調査対象地区の位置図

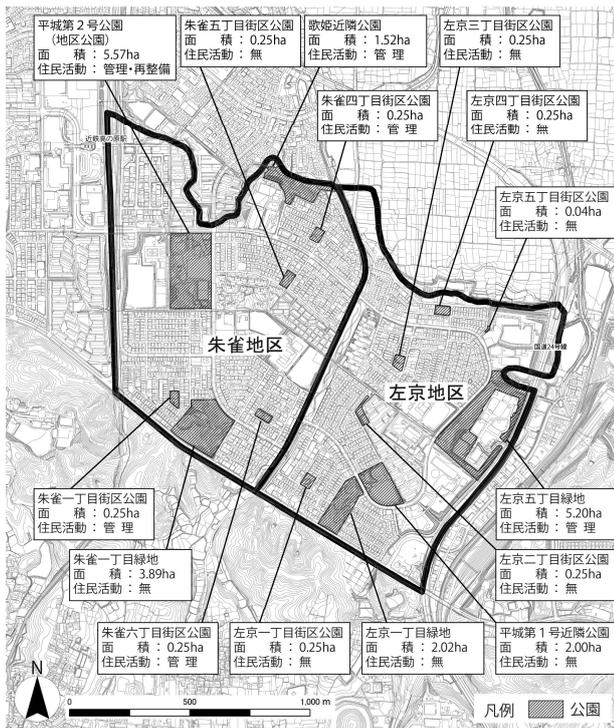


図-2 調査対象地区の公園配置状況

図-1は、調査対象地区の位置を示している。

本研究では、近隣住区論に基づいて公園が計画的に配置された平城・相楽ニュータウンの典型住区である朱雀地区と左京地区を調査対象地区とした。平城・相楽ニュータウンは、京都府と奈良県の府県境に位置し、1970年から日本住宅公団によって、土地区画整理事業で開発された。計画人口は73,000人、計画戸数は18,230戸である。

図-2は、調査対象地区の公園の配置状況を示している。

図-2より、公園の配置状況を見ると、朱雀地区には朱雀四丁目街区公園をはじめとする街区公園は4カ所、地区北部に1.52haの歌姫近隣公園が1カ所、地区中央部に平城第2号公園、面積5.57ha

表-1 アンケート調査方法および回答者属性

調査年月	2018年10月		
配布方法	地元自治会による全戸配布		
回収方法	郵便回収		
配布数	5,166票		
有効回答数	1,022票(朱雀地区:607票、左京地区:415票)、有効回答率:19.8%		
回答者属性	(1)性別		
	男性43.0%(440)	女性56.0%(572)	不明1.0%(10)
	(2)年齢		
	10歳代0.3%(3)	20歳代1.5%(15)	30歳代7.2%(74)
	40歳代11.7%(120)	50歳代17.1%(175)	60歳代25.5%(261)
	70歳代27.7%(283)	80歳代8.2%(84)	不明0.7%(7)
	(3)家族構成		
	単身8.4%(86)	夫婦のみ42.1%(430)	夫婦と親2.2%(22)
	夫婦と子ども39.1%(400)	夫婦と親と子ども2.3%(24)	その他5.0%(51)
	不明0.9%(9)		
	(4)居住年数		
	5年未満11.4%(117)	5~10年未満7.4%(76)	10~20年未満20.3%(207)
20~30年未満25.0%(256)	30~40年未満31.8%(325)	40~50年未満3.2%(33)	
50年以上0.2%(2)	不明0.6%(6)		

※()内数字は票数を示す。

表-2 アンケート質問項目と潜在・観測変数との対応

潜在変数	観測変数 (モデル上の表記)	アンケート質問項目	質問尺度
公園への評価	公園への かかわり	1-1 イベント	地区の公園でのお祭りやイベントに参加してみたい
		1-2 公園管理	地区の公園の管理活動に参加してみたい
		1-3 公園づくり	地区の公園の将来のあり方を考える活動に参加してみたい
	公園の環境	2-1 公園手入れ	地区の公園の樹木や花壇の手入れは行き届いていると思う
		2-2 公園施設満足	地区の公園の遊具や休憩施設等の施設に満足している
		2-3 公園安全	地区の公園は安全だと思う
		2-4 公園清潔感	地区の公園には清潔感が感じられる
	公園への愛着	3-1 公園大切	地区の公園は大切だと思う
		3-2 自分の公園	地区の公園は自分の公園だという感じがする
3-4 公園への愛着		地区の公園に愛着を感じている	
地域への評価	地域への かかわり	4-1 助け合い	地区の住民同士で助け合って暮らしていきたい
		4-2 近所付き合い	近隣とお付き合いを深めたい
		4-3 自治会活動	自治会活動に参加してみたい
	地域の環境	5-1 地域自然	地区の自然やみどりは豊かだと思う
		5-2 地域の街並み	地区の街並みは整っており美しいと思う
		5-3 地域施設充実	地区の公共施設や医療施設は充実していると思う
		5-4 地域安全	地区は安全だと思う
		5-5 地域清潔感	地区には清潔感が感じられる
	地域愛着	6-1 地域大切	地区は大切だと思う
		6-2 地域永住	地区に住み続けたいと思う
		6-3 自分のまち	地区は自分のまちだという感じがする
		6-4 地域への愛着	地区に愛着を感じている

の地区公園が1カ所あり、これら住区基幹公園を補完するものとして地区南部にニュータウン造成時の保存緑地を含む都市緑地として朱雀一丁目緑地、面積3.89haが位置している。左京地区でも同様に近隣住区論に基づいて住区基幹公園が配置されており、左京三丁目街区公園をはじめとする街区公園は、5カ所、近隣公園として、地区南部に平城第1号近隣公園、面積2.00haが位置し、都市緑地として地区東部の左京五丁目緑地、地区南部の左京一丁目緑地の2カ所がある。両地区とも比較的面積の広い地区公園や近隣公園にテニスコートやグラウンドなどの運動施設、その他の公園には遊具や休憩施設などが設置されており、ほぼ同様の施設整備がなされている。

公園での住民活動をみると、朱雀地区では5公園において、自主的に公園の美化や維持管理活動を行う地域の団体に報奨金を交付する奈良市の制度であるグリーンサポート制度に基づく住民に

よる公園管理活動が行われている。加えて平城第2号公園では、公園の再整備に向けて奈良市と協議、調整を行う住民参加による公園づくり活動に取り組まれている。一方、左京地区では、地区公園は存在しておらず、グリーンサポート制度に基づく公園の住民管理活動は、左京五丁目緑地のみとなっており、朱雀地区の方が公園での住民活動に積極的に取り組まれている。

(2) 調査及び解析方法

1) アンケート調査方法及び回答者の属性

表-1 は、アンケート調査方法及び回答者の属性の集計結果を示している。

表-1 より、本研究では、調査対象地区の全戸を対象に公園及び地域への意識を把握するためのアンケート調査を実施した。アンケート調査は、2018年10月に地元自治会の協力を得て、両地区の全戸に配布し、郵送回収を行った。

表-2 は、アンケート質問項目と後述する潜在・観測変数との対応関係を示している。

アンケート調査での質問項目は、前述の表-1 に示す回答者の属性に関する項目、回答者の性別、年齢、家族構成、居住年数の4項目と表-2 に示す公園や地域に対する意識とした。

表-2 より、公園や地域に対する意識では、まず、公園に対する意識を把握するため、現在、対象地区で行われている公園での住民活動である「地区の公園でのお祭りやイベントに参加してみたい」から「地区の公園の将来のあり方を考える活動に参加してみたい」までの公園へのかかわりの意欲を表す3項目、次いで、塚田ら¹⁰⁾や藤居¹¹⁾の居住者の公園の物理的環境に対する評価を参考に、「地区の公園の樹木や花壇の手入れは行き届いていると思う」等の公園の物理的環境への評価を表す4項目、さらに、鈴木ら¹²⁾を参考に、「地区の公園は大切だと思う」等の公園に抱く愛着を表す3項目、計10項目とした。

次いで、地域に対する意識を把握するため、まず、東京ガス(株)都市生活研究所¹³⁾の地域コミュニティ意識を計測する尺度を参考に、「地区の住民同士で助け合って暮らしていきたい」等の地域へのかかわりの意欲を表す3項目、引地ら⁹⁾を参考に「地区の自然やみどりは豊かだと思う」等の地域の物理的環境への評価を表す5項目、鈴木ら¹²⁾を参考に、「地区は大切だと思う」等の地域に抱く愛着を表す4項目、計12項目とした。

以上のように、公園や地域に対する意識を把握するための質問項目として計22項目とし、各項目に対して5件法での回答を求めた。

表-1 より、アンケートの有効回答数は、朱雀地区607票、左京地区415票の計1,022票、有効回答率は計19.8%である。回答者の属性をみると、全体で性別は、男性43.0%、女性56.0%とやや女性が多い。年齢は、70歳代が27.7%、60歳代が25.5%と多く、高齢者が約半数を占めている。家族構成は、成熟期におけるニュータウン地区であることから居住者の高齢化に伴って、夫婦のみが42.1%と多いものの、夫婦と子どもも39.1%と約4割を占め、居住年数は、30～40年未満31.8%、次いで、20～30年未満25.0%と居住年数20年以上が半数強を占めている。両地区において、朱雀地区では、居住年数の30～40年未満が43.2%、年齢の70歳代が35.1%と左京地区と比較してやや多く、これらを反映して、家族構成の夫婦のみが47.8%と多くなっている。

2) 解析方法

i) 公園や地域に対する居住者の意識

公園や地域に対する居住者の意識の把握では、各質問項目に対する「あてはまる」～「あてはまらない」までの5件法に対する回答に対して、+2～-2までの点数を与え、朱雀地区、左京地区の地区ごとに集計し、平均評価点及び標準偏差を算出し、t検定による両地区間の有意差検定を行った。なお、t検定は、IBM社

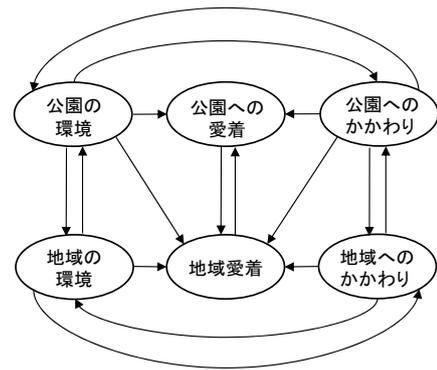


図-3 公園を媒介とした地域愛着の意識構造の仮説モデルの設定

SPSS Statics23 を用いた。

ii) 公園を媒介とした地域愛着の意識構造の把握

公園を媒介とした地域愛着の意識構造の把握では、公園や地域に対する居住者の意識に関するアンケート調査結果を用いて、公園を媒介とした地域愛着の意識構造を把握するため、共分散構造分析を採用した。

解析では、地区ごとに、複数の質問項目からなる潜在変数の内的整合性を検証するため、信頼性係数(Cronbach's α)を算出し、その内的整合性を見たのち IBM 社の SPSS Amos23 を用いて共分散構造分析を行い、地区ごとの公園を媒介とした地域愛着の意識構造モデルを明らかにした。また、引地ら⁹⁾は物理的環境よりも社会的環境の方が地域愛着の形成に強く寄与することを指摘したことから、公園での住民活動が異なる2地区間での比較考察を行った。

表-2 は、仮説モデルで設定した潜在変数、観測変数とアンケート質問項目との対応関係を示し、図-3 は、公園を媒介とした地域愛着の意識構造を把握するための仮説モデルを示している。

アンケート質問項目の22項目は、公園へのかかわりの意欲(以下、公園へのかかわり)、公園の物理的環境への評価(以下、公園の環境)、公園に抱く愛着(以下、公園への愛着)、地域へのかかわりの意欲(以下、地域へのかかわり)、地域の物理的環境への評価(以下、地域の環境)、地域に抱く愛着(以下、地域愛着)の計6分類から構成しており、これらを共分散構造分析における潜在変数(以下、『』は潜在変数を示す)として設定した。6分類の潜在変数を構成する観測変数(以下、「」は観測変数を示す)として、22のアンケート質問項目が対応している。図-3より、公園を媒介とした地域愛着の意識構造の仮説として、6つの潜在変数間にそれぞれ因果関係があるものとして仮説モデルを設定した。

3. 解析結果

(1) 公園や地域に対する居住者の意識

図-4及び図-5は、公園及び地域への評価に関する各質問項目に対する地区ごとの平均評価点の集計結果及び地区間での有意差検定結果を示している。

図-4より、公園への評価を見ると、両地区に共通して、「公園大切」は、朱雀地区1.67(平均評価点)、左京地区1.57と他の項目と比較して非常に高く、次いで、「イベント」は朱雀地区0.69、左京地区0.56とやや高く、朱雀地区では、「公園手入れ」、「公園安全」、「公園清潔感」、「公園への愛着」は、0.53～0.90とやや高い。両地区での有意差検定結果を見ると、「イベント」や「公園管理」等の「公園へのかかわり」に関する項目では有意な差が見られないものの、「公園の環境」を構成する「公園手入れ」や「公園施設満足」等の4項目、「公園への愛着」に関わる「公園大切」、「自分の公園」、「公園への愛着」の3項目の全てにおいて左京地区と比

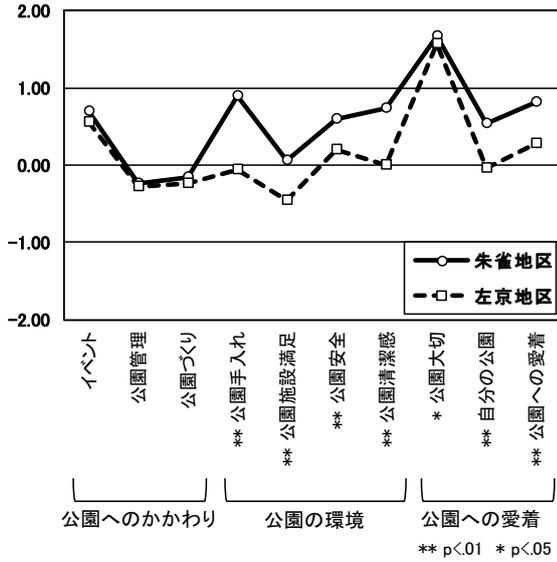


図-4 公園への評価

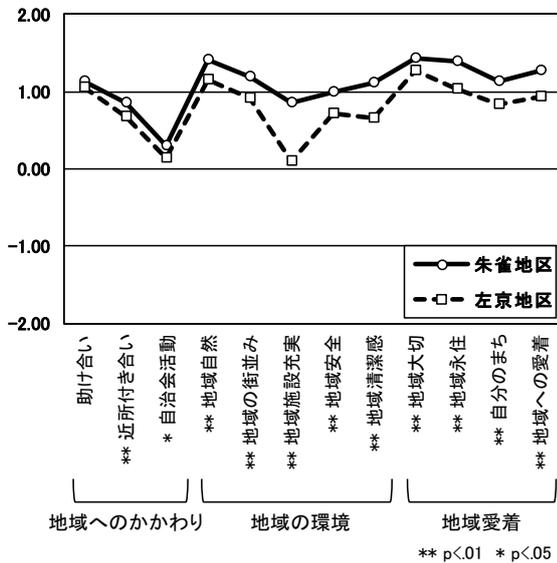


図-5 地域への評価

較して朱雀地区での評価は有意に高くなっている。

図-5より、地域への評価を見ると、両地区に共通して、「地域大切」、朱雀地区1.44、左京地区1.27と他の項目と比較して高く、次いで、「助け合い」は朱雀地区1.14、左京地区1.04、「地域自然」は朱雀地区1.40、左京地区1.16と高い。両地区での有意差検定結果を見ると、12項目中の「助け合い」を除く11項目において朱雀地区は、左京地区と比較して有意に高くなっている。

以上のことから、両地区の居住者は、地区の自然やみどり等の地域の自然環境に対する評価が高く、地区を大切に思い、住民同士で助け合いながらの暮らしに対して評価し、地区の公園を大切に感じ、公園での祭りやイベントへの参加に対して意欲を示していることがわかる。さらに、2地区を比較すると、朱雀地区の居住者は、左京地区と比較して、公園の環境に対する評価、公園への愛着、また、地域の環境に対する評価とともに、地域へのかかわりに対する意欲、さらには地域愛着も高いことが明らかとなった。

(2) 公園を媒介とした地域愛着の意識構造

1) 意識構造モデルの適合度

表-3及び表-4は、公園の評価及び地域への評価の潜在変数の

表-3 公園への評価の信頼性係数

潜在変数	観測変数(質問)	平均		信頼性係数 (Cronbach's α)	
		朱雀	左京	朱雀	左京
公園へのかかわり	イベント	3.69	3.56	0.81	0.81
	公園管理	2.75	2.71		
	公園づくり	2.85	2.76		
公園の環境	公園手入れ	3.90	2.94	0.82	0.85
	公園施設満足	3.06	2.54		
	公園安全	3.60	3.20		
	公園清潔感	3.74	2.99		
公園への愛着	公園大切	4.67	4.57	0.78	0.72
	自分の公園	3.53	2.97		
	公園への愛着	3.81	3.28		

表-4 地域への評価の信頼性係数

潜在変数	観測変数(質問)	平均		信頼性係数 (Cronbach's α)	
		朱雀	左京	朱雀	左京
地域へのかかわり	助け合い	4.14	4.04	0.85	0.75
	近所付き合い	3.85	3.68		
	自治会活動	3.29	3.14		
地域の環境	地域自然	4.40	4.16	0.85	0.76
	地域の街並み	4.19	3.92		
	地域施設充実	3.86	3.11		
	地域安全	4.00	3.70		
	地域清潔感	4.11	3.65		
地域愛着	地域大切	4.44	4.27	0.92	0.91
	地域永住	4.38	4.02		
	自分のまち	4.13	3.83		
	地域への愛着	4.26	3.94		

信頼性係数を示している。

まず、公園と地域への意識を潜在変数ごとに捉え、複数の質問項目からなる変数の内的整合性を検証するため、信頼性係数(Cronbach's α)を算出し、その内的整合性を確認した。表-3より、公園への評価の潜在変数の信頼性係数を見ると、『公園へのかかわり』、『公園の環境』の信頼性係数は、それぞれ朱雀地区で0.81、0.82、左京地区で0.81、0.85であり、十分な内的整合性が示された。『公園への愛着』の信頼性係数は、朱雀地区0.78、左京地区で0.72である。一般に信頼性係数は0.80以上が内的整合性の判断基準とされるが、変数間の相関関係や差を検討する際にはそれほど高い値が必要とされず0.60以上であれば一定の内的整合性が持たれていると判断される場合もある⁹⁾。このことから、『公園への愛着』は一定の内的整合性を持つと考え、分析を進めることとした。

表-4より、地域への評価の潜在変数の信頼性係数を見ると、左京地区において『地域へのかかわり』0.75、『地域の環境』0.76とやや低い値を示すのみとなっており、地域への評価も公園への評価と同様に、一定の内的整合性を持つと考え、分析を進めることとした。

図-6及び図-7は、共分散構造分析によって得られた朱雀地区、左京地区ごとの地域愛着の意識構造モデルを示し、各パスに付した値は、標準化係数で因果関係の影響の強さを示しており、パスの太さは有意水準に従い、太いパスから有意水準0.1%、1%、5%を示している。

朱雀地区のモデルの適合指標は、CFI 0.911、GFI 0.879、AGFI 0.847、RMSEA 0.076、左京地区は、CFI 0.911、GFI 0.881、AGFI 0.851、RMSEA 0.068であり、CFI、GFI、AGFIの値のいずれもが0.80以上を示し、RMSEAは0.10未満であることから得られたモデルを適合モデルとして採用した。

「地域への愛着」が0.89, 「地域永住」が0.81, 「地域大切」が0.64といずれも高い値を示し、『地域愛着』から強い影響を受けていることが分かる。

次に、公園に関する潜在変数に着目すると、『公園の環境』の観測変数のパスの標準化係数は「公園清潔感」から「公園手入れ」の4項目の全てにおいて0.60以上の高い値を示し、『公園の環境』から強い影響を受けている。『公園へのかかわり』の観測変数である「公園づくり」、「公園管理」、「イベント」への参加意欲の標準化係数も0.70以上の高い値を示し、『公園へのかかわり』から強い影響を受けている。『公園への愛着』の観測変数の標準化係数は「公園への愛着」0.90, 「自分の公園」0.79と高い値を示し、「公園大切」の0.41と比べて強い影響を受けていることが分かる。

次いで、潜在変数間に着目して『地域愛着』に影響を与える潜在変数間の構造をみると、『地域の環境』から『地域愛着』へのパスの標準化係数が0.52, 『地域へのかかわり』から『地域愛着』が0.36, 『公園への愛着』から『地域愛着』が0.30であり、『地域の環境』や『地域へのかかわり』が高まると『地域愛着』も高まり、その影響は『地域の環境』がやや強く、『地域へのかかわり』と『公園への愛着』はほぼ同程度であることが分かる。また、『公園の環境』から『地域愛着』へのパスの標準化係数は-0.20と負の弱い値を示し、『公園の環境』は直接『地域愛着』を高める要因にはなっていないが、『公園の環境』が高まると『地域の環境』と『公園への愛着』が高まり、『公園へのかかわり』が高まると『地域へのかかわり』と『公園への愛着』が高まることで間接的に『地域愛着』を高めることが分かった。

iii) まとめ

朱雀地区、左京地区ともに『地域愛着』は、『地域の環境』、『地域へのかかわり』に正の影響を受け、さらに『公園への愛着』にも正の影響を受けており、『公園の環境』と『公園へのかかわり』は直接的に『地域愛着』に対して負の影響、もしくは影響を与えるものではないが、これらは『公園への愛着』に加えて、『地域の環境』、『地域へのかかわり』に正の影響を与えており、『公園への愛着』や『地域の環境』、『地域へのかかわり』が『地域愛着』に影響を与えることで、間接的に地域愛着に対して正の影響を与えていることが明らかとなり、両地区に共通する公園を媒介とした地域愛着の醸成に至る意識構造を明確にすることができた。加えて、左京地区と比較して住民活動に積極的に取り組まれている朱雀地区においてのみ『公園への愛着』は『地域愛着』とそれぞれ互いに正の影響を与えあっているといった2地区間における公園を媒介とした地域愛着の醸成に至る意識構造の差異も捉えることができた。

4. まとめ

本研究では、近隣住区論に基づいて住区基幹公園が計画的に配置された平城・相楽ニュータウン地区を事例として公園や地域に対する居住者の意識に関するアンケート調査結果を用いて、公園への愛着と地域愛着との関係を示した仮設モデルを設定し、共分散構造分析を行った。その結果、ニュータウン地区の居住者の公園を媒介とした地域愛着の醸成に至る意識構造を都市施設の中でも公園を対象を限定して探るとともに、公園での住民活動が異なる2地区の比較を通じて明らかにした。

奈良市の報奨金制度であるグリーンサポート制度を活用して、公園での住民活動に積極的に取り組まれている朱雀地区では、左京地区とは異なり、『地域愛着』と『公園への愛着』が相互に影響を及ぼしあっていることが明らかとなった。朱雀地区は、『地域へのかかわり』が影響を及ぼす「近所付き合い」、「自治会活動」、さらに、『地域の環境』が影響を及ぼす「地域自然」等の全ての項目、『地域への愛着』が影響を及ぼす「地域大切」等の全ての項目において、左京地区と比較して、有意に評価が高い。また、朱雀地区は、

『公園の環境』が影響を及ぼす「公園手入れ」、「公園施設満足」等の全ての項目、『公園への愛着』が影響を及ぼす「公園大切」等の全ての項目において、左京地区と比較して、有意に評価が高まっている。以上のことから、公園の環境に対する評価は、地域の環境に対する評価も高めるものと考えられ、公園での住民活動を通じて公園の環境を良好に維持することは、公園への愛着のみならず、地域へのかかわり、地域の環境に対する評価に加えて、地域への愛着を醸成する上で重要であると言え、公園への愛着を媒介に地域への愛着が高まり、地域への愛着が公園への愛着を高めるといった相乗効果が発揮されることで、より地域を大切にし、地域での永住を促進し、自分のまちとしての誇りが高められるものと考えられる。

補注及び引用文献

- 1) 国土交通省 (2015) :国土交通白書 2015 :第1章第2節 :国土交通省, 21
- 2) 谷口守・松中亮治・芝池綾 (2008) :ソーシャル・キャピタル形成とまちづくり意識の関連 :土木計画学研究・論文集 25, 311-318
- 3) 谷口綾子・今井唯・原文宏・石田東生 (2012) :観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究—ニセコ・倶知安地域を事例として :土木学会論文集 D3, 68(5), 551-562
- 4) 伊藤香織 (2017) :都市環境はいかにシビックプライドを高めるか—今治市を事例とした実証分析— :都市計画論文集 52(3), 1268-1275
- 5) 鈴木崇之・石川徹・貞弘幸雄・浅見泰司 (2011) :都市施設が居住者のまちへの愛着に及ぼす影響に関する研究 :都市計画論文集 46(3), 117-123
- 6) 松村暢彦 (2008) :モビリティ・マネジメントによる交通行動変容と地域愛着の関係性 :環境情報科学論文集 22, 127-132
- 7) 鈴木春奈・藤井聡 (2008) :「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究 :土木学会論文集 D, 64(2), 179-189
- 8) 引地博之・青木俊明・大淵憲一 (2009) :地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響— :土木学会論文集 D, 65(2), 101-110
- 9) 松浦権治郎 (2015) :住民主体の公園再整備における住民参加と利用・愛着の関係性に関する研究—三重県名張市つつじヶ丘地区を対象として :環境情報科学論文集 29, 213-218
- 10) 塚田伸也・湯沢昭 (2002) :住民意識から捉えた小公園の評価構造に関する検討 :都市計画論文集 37, 907-912
- 11) 藤居良夫 (2005) :地方都市における街区公園に対する住民意識の分析 :ランドスケープ研究 68(5), 833-836
- 12) 鈴木春奈・藤井聡 (2008) :地域愛着が地域への協力的行動に及ぼす影響に関する研究 :土木計画学研究・論文集 25(2), 357-362
- 13) 東京ガス (株) 都市生活研究所 (2015) :地域コミュニティ意識を計測する尺度を開発—まちづくり・コミュニティづくりの定量評価が可能に— :都市生活レポート, <<https://www.toshiken.com/report/community06.html>>, 2019.09.21 参照

(2019.9.28受付, 2020.3.30受理)